

「ヒートポンプの性能測定方法に関する公開質問状」への

シャープ株式会社による回答

★エアコンの性能評価と表示について

エアコンに関して、ユーザーによる一般的なリモコン操作では再現できない方法、いわゆる「爆風モード」を採用したエアコンは、これまでに約 3,000 万台～4,000 万台が販売されてきたと伝えられています。御社のこうした製品の製造、販売状況について質問します。

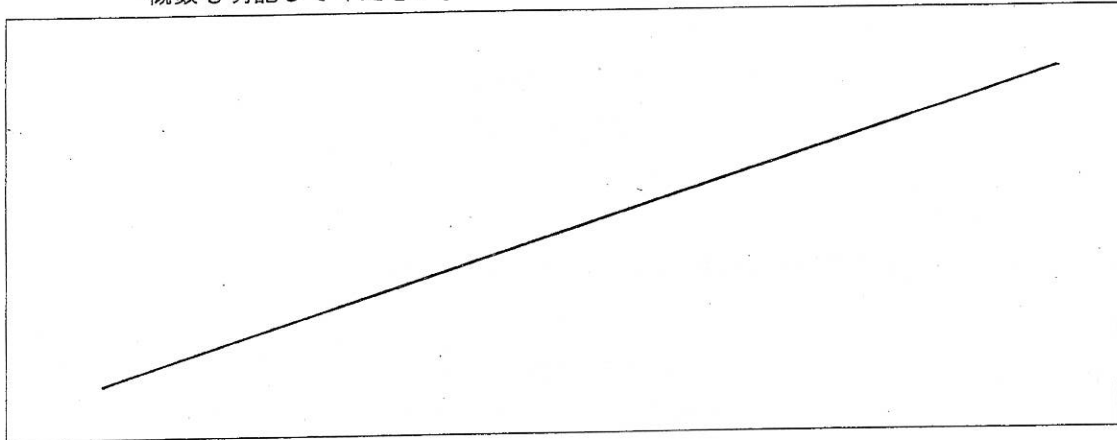
Q 1 : 御社の製品の場合、爆風モードによる性能測定によるエアコンの販売を行っていたことがありますか。あるとすれば、その時期はいつからいつまででしょうか。

A ある (時期: )

B ない

「法律、規格に基づいて性能試験を行っております。」

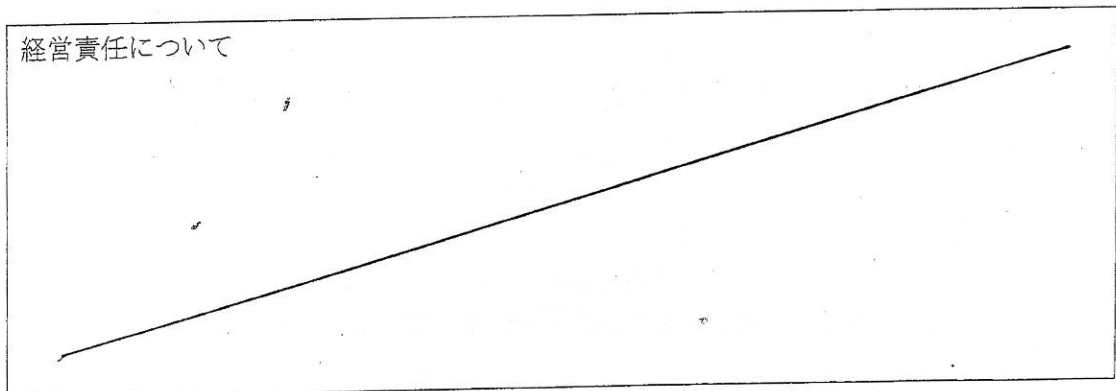
Q 2 : 毎年の製品ごとに、爆風モードを起動するためのスイッチ操作方法を明らかにしてください (自動起動の場合は明記)。また、各機器の国内販売台数 (実績) の概数も明記してください。



Q 3 : 上記の測定方法やその表示は、法令や消費者への情報提供の観点から、適正なものと考えていますか。また、いわゆる爆風モードを搭載していると知りながら、これらの機器を製造・販売していたのであれば、御社としてどのような経営責任をとられるつもりか記載してください。

A 表示は適正である

B 表示は適正ではない



Q 4 : 上記の問題に加えて、エアコンの使用時間についても過大に見積もられ、実体とはかい離した表記がなされていると伝えられています。エアコンの性能測定方法や店頭表示法に関しては、通常作動や時間に即した表示とすべきと思いますが、御社としての今後改善策や基本方針を明らかにしてください。

A. 実性能に即した表示とすべき B. J I S に即した表示とする

今後の改善策や基本方針について

- ・店頭での電気代の目安は省エネ基準部会の小委員会で表示が決められたものです。この電気代の表示は販売事業者が店頭で「統一省エネ表示ラベル」として表示することが努力義務と定められているので各販売事業者は表示を行っています。
- ・当社は、日本冷凍空調工業会/JISで定められた基準に基づき「期間消費電力量」を算出しカタログに記載しておりますが、これは省エネ性能を比較するためのもので、お客様の使用実態を表わすものではありません。
- ・エアコンの使用時間・使用環境は千差万別であるため、使用実態を踏まえた算出基準の設定はもとより、電気代の目安を表示することにつきましても、業界における検討課題であると認識しております。

Q 5 : エアコンに冷媒としてフロンを使用している場合、カタログにフロンの種類、封入量、地球温暖化効果を表示すべきと考えますが、御社の製品カタログでは表示されていますか？また、冷媒フロンの対応について自然冷媒への転換や今後の表示等についてのお考えをお聞かせください。

A 表示している B 表示していない

- ・フロンの種類 : 総合カタログ、エアコン室外機の定格銘板に表記しております。
- ・フロン封入量 : エアコン室外機の定格銘板に表記しております。
- ・地球温暖化効果 : 工業会の自主的取り組みに沿って、2009年10月以降から、エアコン室内機・室外機に「見える化表示」を行っております。

★エコキュートの性能表示について

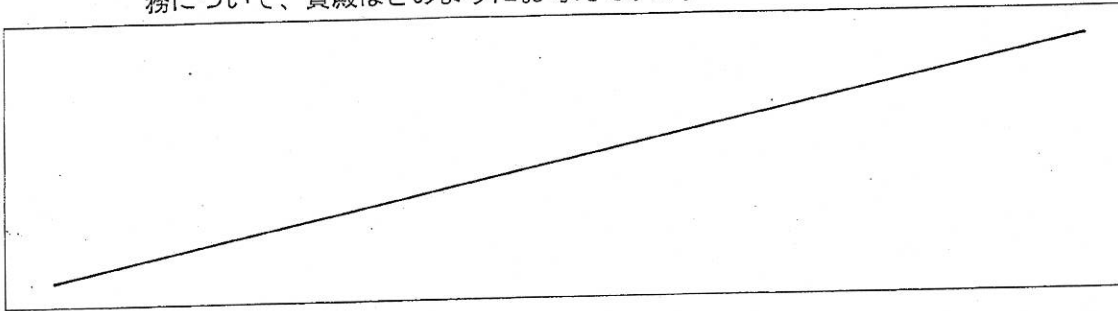
エアコンのみならず、エコキュートの実性能は通常地域においてCOPが2前後であること、寒冷地においては1程度にあると言われ、エコキュートの効率性が過大に評価され、不適正な表示がなされていると言われています。温暖化対策施策の中で今後の大幅な導入が見込まれていますが、実態に即した表示がなされていなければ、今後、冷蔵庫、エアコンに続き、3度目の社会的被害となることが懸念されますが、これについて質問します。

- Q 6 : 御社ではエコキュートを年間何台程度、製造販売しているのか具体的にお書きください。また御社のエコキュートは、性能表示と実性能が上記のように違いがあるのでしょうか。

エコキュートの販売台数 年間 \_\_\_\_\_ 台

- A エコキュートの製造はしていない  
 B 実性能はCOP表示と異なる  
 C 実性能はCOP表示と同じである

- Q 7 : エコキュートの効率について、適正な測定規格・表示を導入する方向に進む責務について、貴殿はどのようにお考えですか。



★ヒートポンプと温暖化対策について

一般的に過大性能評価されたヒートポンプは温暖化対策になるどころか、むしろ対策を遅らせる原因にもなります。また、エアコンなどのヒートポンプに封入されている冷媒フロンは高性能の表示のために増量されてきたとの報告もあり、実体的な省エネ効果がないばかりか、フロンの使用時大量漏えいや回収率の低迷により地球温暖化を促進していることも明らかとなってきました。これについて以下に質問します。

- Q 8 : 実態を欠く、虚構のヒートポンプを推進した弁償として、市場に出回った冷媒フロン、いわゆるフロンバンクの回収対策についてどのように考えますか（自己資金によるフロンの買い取りなど）、御社の方針をお聞かせください。

- ・冷媒回収につきましては、家電リサイクル法のスキームの中で、メーカーとしての責務を果たしていると認識しております。

Q 9 : 表示性能に満たない製品を購入した消費者に対して、どのように弁償するのか(金銭賠償や、表示どおりの性能が発揮される製品への取り替えなど)、方針をお聞かせください。

- ・製品の表示は、品質表示法を遵守しています。  
また、表示性能を満たしていないことを認識しながら、生産・販売を行うということはありません。

Q 10 : (財)ヒートポンプ・蓄熱センターが6月8日、ヒートポンプの高性能化、普及拡大で大きな経済効果とCO<sub>2</sub>の大幅削減が期待できるとの報告書を発表しました。報告書では、冷暖房や給湯がすべてヒートポンプに変われば1億4000万トンの削減可能性があるとしています。こうした削減PRに対してどのようにお考えですか。また、御社としてどのように関与する予定でしょうか。

今後の改善策や基本方針について

- ・当社は目指すべき企業像を「エコ・ポジティブカンパニー」と定め、低炭素社会の実現の一翼を担っていきたいと考えております。  
具体的にはヒートポンプの高性能化・普及拡大はもとより、省エネ性能の高い商品群の創出やソーラーの普及・拡大などを通じ、CO<sub>2</sub>の削減に向けた取り組みを強化してまいります。

★その他、本件に関して何かコメントがあればお願いします。